

にしとみおか・むこうばたいせき

西富岡・向畑遺跡

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中・近世



作成日:20110304 更新:20120425

概要

西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設に伴う事前事業として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約2kmにわたって広がる遺物散布地として知られています。発掘調査では、中世～近世、古墳時代末～平安時代、縄文時代、旧石器時代の遺構・遺物が見つっています。

現在調査は継続して行われていますが、2011年1月から一部先行し出土品整理を開始しました。整理作業は、最初に調査が行われた2区と4区を対象として行っています。

中世～近世の遺構としては、掘立柱建物跡、段切遺構、溝状遺構、畝状遺構、土坑、道状遺構、地下式坑、柱穴列、ピットなどが見つっています。

古墳時代末～平安時代の遺構としては、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、柱穴列、ピットなどが見つっています。出土した遺物は土師器の坏や甕が最も多く、須恵器や灰釉陶器が少ない傾向にあります。さほど一般的な集落との大きな差異は認められません。その一方で金属製品では、時期はやや前後するとみられますが、竪穴住居跡から金銅製飾り金具や帯金具がまとまって出土しており、この集落の特徴として注目されます。

縄文時代は、後期、中期、早期の3時期の遺構が確認さ



▲ 奈良時代 帯金具



▲ 縄文時代 埋甕の接合状況

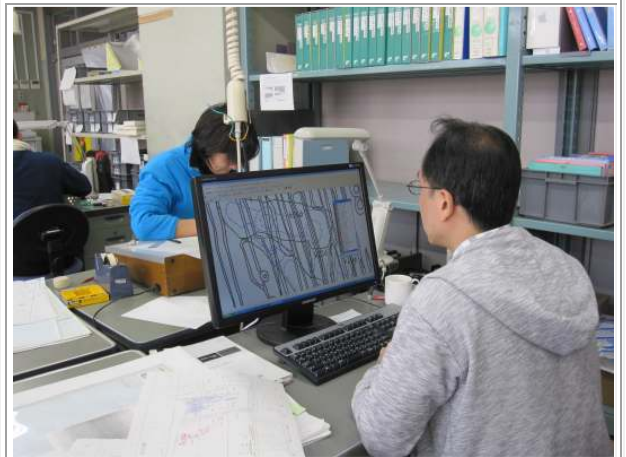
れており、竪穴住居跡、敷石住居跡、集石遺構、配石遺構、土坑、埋甕、炉跡、带状粘土列が見つっています。带状粘土列は後期の包含層中から検出されたもので、最大幅約 30 cm、長さ約 22m の範囲に带状に粘土が敷かれた遺構で、方向はやや東によるもののほぼ南北方向に直線的に並んでいました。

旧石器時代の調査では、L1S~L1Hにかけて石器群が検出されました。

現在は土器の接合や復元作業、石器や鉄製品などの遺物の実測作業、竪穴住居跡や土坑などの遺構を測量してきた図面データ類の検討、浄書等を行っています。そうしてまとめた整理作業の成果は、報告書作成に反映させていきます。



▲ 平安時代 坏底部の拓本作業



▲ 遺構のデジタルトレース作業